

# 黄金桃(おうごんとう)

育成者：池田正元(長野県長野市  
川中島町)

来歴：偶発実生  
育成地：長野県長野市川中島町

## 特性

### ■栽培特性

樹姿は開張と直立の中間を示し、樹勢は「川中島白桃」と同程度でやや強く、樹は大きい。若木時は直立するが、樹齢を経るにしたがい開張する。枝梢の長さおよび節間長は中程度である。葉身の形および葉の大きさは「川中島白桃」と同様である。

花芽の性状は単複芽であり、花芽の着生や枝梢の発生は安定している。ただし花芽の着生は、「川中島白桃」と比べるとやや少ない。

長野県長野市における開花期は4月下旬で、「川中島白桃」とほぼ同時期である。花は普通咲きで、大きさは大きい。花粉を有し、結実は良好である。

生理的落果および核割れの発生はやや見られるものの少ない。

成熟日数は満開後120～130日の範囲にあり、「川中島白桃」と同時期か、やや遅く成熟する。長野県長野市で8月下旬から9月上旬に収穫できる。

### ■果実特性

果形は扁円形であるが、「川中島白桃」にくらべてやや円形に近い。果頂部の凹みは中程度である。こうあ部の広さおよび深さは中程度である。縫合線の深さは浅い。果実の大きさは250～280gとやや大きく、玉揃いはやや良である。果皮の地色は黄色で、陽光面を中心にぼかし状の濃紅色の着色を示す。ただし、無袋栽培では果皮の色調が劣り、果面が荒れ、裂果が発生することがあるため、有袋栽培を前提とする。

果肉色は淡黄色、果肉内や核周囲の着色は少ない。果肉は緻密で、肉質は溶質である。果汁は多く、香りがある。甘味は多く、糖度は屈折計示度で13～14%と高い。酸味は少なく、pH4.5前後である。甘味が多く、香りがあるため、食味は優れる。日持ち性は中程度であるが、収穫が遅れ、過熟になると果肉が粉質化しやすい。核と果肉の粘離は離核で、果肉が離れやすく食べやすい。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害に対しては他の主要品種とほぼ同等であるため、主要な病虫害については十分な防除対策が必要である。また、せん孔細菌病に対しては「川中島白桃」と比べて、やや弱い傾向が見られる。

果面の保護については無袋栽培では果皮の色調が劣り、ひび、裂果等の果面障害が起こりやすいので有袋栽培を前提とし、収穫7～10日前を目安に除袋を行う。日持ち性は中程度であるが、収穫が遅れ、過熟になると果肉が粉質化し、日持ち性が悪くなるので適期収穫に心がける。

### ■地域適応性

東北地方から九州にかけてのモモの栽培地域で栽培が可能であり、適応性も十分あると考えられる。また黄肉・離核のモモとして希少価値があり、消費者の嗜好の多様化にも対応できるので、期待できる品種であると考えられる。

(田尻勝博)